

今回は5名の隊員の中から谷とはつとりが、2人で取り組んでいる活動を紹介します。

協力隊のひとこと

2016年3月号



■「103 (とうみ) の宝」探しの旅

私たちは2人は、時折小さな旅に出ます。この旅では、地域に住む人が思うその地区にしかない宝（物や風景、人など）を聞いていくことを目的にしています。そこから私達で、「これだ!」と思うものを「103 (とうみ) の宝」として認定していき、はっとりさちこがパーソナリティを務めるエフエムとうみの番組「103 (イチマルサン) 協力隊活動中」(毎週火曜日午後4時～)で紹介していきます。今回は、旅のインタビューの中で、「素敵だな～」と思った加沢区の103の宝を紹介します。

●水がジャブジャブでる風景

教えてくれたのは、加沢に住んでいるとてもシャイな方。庭先の畑の手入れの手を止めて、まぶしそうに畑を眺めながらゆったりとお話してくださいました。その宝は「水がジャブジャブでる加沢の風景」。50年前の加沢区は、水が豊富な地域だったそうで、畑を掘れば水がジャブジャブ湧いてきて、夏にはトマトやキュウリを冷やして食べていたそうです。ご存知でしたか？隣の畑を指さしながら、今は使われていない井戸を教えてくださいました。



●隧道のある田圃



田んぼを歩いていると、もくもくと立ち上がる煙の中におじさんを発見。近くによって聞いてみると、「雑草の種を燃やして、来年にそなえているんだ」とのこと。なるほど～…でも明らかに広範囲で燃えてる…。「ちょっと目を離した隙に藁に燃え移っちゃった…」とお茶目なおじさん。そんなおじさんが教えてくれたのは、春先の隧道（ずいどう）掃除。加沢区では田植えの前に隧道と呼ばれる水の通り道をみんなで掃除するそうで、この隧道は千曲川から水を引っ張ってきているとのこと。布引観音の対岸にその水門があるそうです。隧道の掃除は、「コウモリもいるし、水も深いので掃除を終えたころには体中泥だらけだし、寒いし、もうこんな事やりたくねえ!」と毎回思っているそうですが、「おれがやらなきゃ」と、毎年参加されているそうです。

ここ東御市の皆さんには当たり前の事が、私達にとっては、とても新鮮で、驚くことばかりです。とは言え、このインタビューは、私達のように外からやってくる人、やってきた人たちはもちろんですが、東御市の皆さんにとっても意識していなかった魅力の再発見になるといいと思っています。

どうぞ「103の宝」探しの旅をしている私たちを見かけましたら、気軽にお話をお聞かせください。

どうぞ「103の宝」探しの旅をしている私たちを見かけましたら、気軽にお話をお聞かせください。



谷貴人 & はつとりさちこ